

学域名	人間社会学域
学類名	経済学類

2014年度版

学類のアドバンス（学位授与方針）

- 以下の5つの人材養成目標を掲げ、この人材養成目標に到達した者に学士（経済学）の学位を授与する。
- 幅広い教養、知識、判断力を持った社会で活躍できる人材を養成する。
 - 経済学・経営学の専門知識を持った人材を養成する。
 - 現代社会に対する強い問題意識をも、自分自身の力で課題を発見し、解決する能力をもった人材を養成する。
 - 高いコミュニケーション能力（外国語によるものも含む）、プレゼンテーション能力、IT能力を養う。
 - 地域社会が抱える問題に関心をもち、そこに積極的に関与することのできる人間性豊かな人材を養成する。

学類のOP(カリキュラム編成方針)

【2008年度から2011年度の入学】初年度には経済学を学ぶにあたっての基礎的なツールとなる「経済学1や、経済学への興味関心を高めることを目的に配置した「総合講義」を履修し、2年度以降に本格的な専門科目の履修に備える。専門科目として履修される科目の大部分は選択科目であり、各自の興味に応じて自主的に履修計画を作成することができる。共通プログラムとしての位置づけを持つ経済学共通科目(10科目)として配置し、そこから5科目(10単位)を履修することが卒業要件となっている。なお、2年度から経済理論・経済政策コース、経営・情報コース、比較社会経済コースのいずれかに配属されるが、各コースが設定したコース選択必修科目から少なくとも8科目12単位を履修することが卒業要件となっている。また、3年度から、各自が関心を持つ専門分野に配属され、専門分野をより深く探求する。演習では、研究指導を目的とした特別研究(3年度)、卒業研究(4年度)の履修が可能である。

【2012年度以降の入学】専門科目として履修される科目の大部分は選択科目であり、各自の興味に応じて自主的に履修計画を作成することができる。しかし共通プログラムとしての位置づけを持つ科目は、学修共通科目として選択必修となっている。学修共通科目は、数学系、原論系、経済史、学際・学際系等の4領域から、それぞれ2.1科目以上、全体で8科目12単位を履修することが卒業要件となっている。3年度から、各自が関心を持つ専門分野に配属され、専門分野をより深く探求する。演習では、研究指導を目的とした特別研究(3年度)、卒業研究(4年度)の履修が可能である。また演習履修後に、経済理論・経済政策コース、経営・情報コース、比較社会経済コースのいずれかに配属されるが、各コースが設定したコース選択必修科目から少なくとも8科目12単位を履修することが卒業要件となっている。

- 学類の学習成果（O=学習成果を上げるために履修することによって達成される科目、O=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）
- 幅広い教養を身につけ、現代的な視点を養う。
 - 経済学・経営学を学ぶに必要な基礎的な考え方や分析手法を修得する。
 - 市場経済のしくみと政府の役割を理解する。
 - 企業、組織のしくみを学び、経営に必要な知識を得る。
 - 国際経済の動向および外国事情に対する理解を深める。
 - 現代経済社会が形成されるに至った過程及び背景を理解する。
 - さまざまな経済学説や理論を修得する。
 - 国際社会、日本社会、地域社会が抱える諸問題を理解し、解決の政策立案能力を養う。
 - 将来、社会の一員として働くことの意識を高めるとともに、キャリア形成のための基盤を形成する。
 - 課題を見出し、自ら調べ、解決策を導き出す能力を培う。
 - さまざまな情報源(日本語以外で発信されているものも含む)から適切な情報を選択し、有益な活用する能力を養う。
 - 社会人に必要なコミュニケーション能力、IT能力、プレゼンテーション能力、ディベート能力を身につける。

学類のキャリアパス

科目番号	履修科目名	履修科目の主題 (この履修科目の中心となる履修・関心・テーマ等)	学生の学習目標	学年	前期	後期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
13203	現代経済理論A	資本主義経済の基本的なメカニズムを理論的に理解する。	1. 主要専門用語をきちんと理解する。 2. そのうえで、用語を正しく使ってロジックを説明できるようにする。 3. 理論的説明から簡単な数学的表現に慣れる。	2	*		△	○	○				△	◎	◎			
13201	理論経済学 I A	市場の仕組みを理解する	ミクロ経済学を学習する上で必要となる諸概念を理解することができるようになる。 1. 重要曲線の概念を理解することができるようになる。 2. 供給曲線の概念を理解することができるようになる。	2	*			◎	◎				△	△	○	○		
13202	理論経済学 II A	マクロ経済学を中心として経済学の基礎的な考え方や分析方法を学ぶ。	1. 市場経済の機能と基礎的なマクロ経済理論を体系的に身につけることができる。 2. マクロ経済に関する諸概念を理解し、自分の力でそれらを現実経済に適用し、議論を展開することができる。	2	*				◎	◎			△	○	○	○		
33120	統計学	資料の整理と推測統計基礎	統計学の基礎概念を理解する。種々の表を批判的に見られる。簡単なデータ処理が可能になる。	2	*			◎						△			○	○
	統計学A	資料の整理と推測統計基礎	統計学の基礎概念を理解する。種々の表を批判的に見られる。簡単なデータ処理が可能になる。	2	*			◎						△			○	○
	経済変動論A	資本主義の原理的機構分析	資本主義経済の本質理解が可能になる。	2	*			◎	◎					○		○		
13101	経済数学 I	経済学で用いられる基礎的な数学について学ぶ。	1. 初等的な解析学(特に微分法)の知識を身につけ、実際に様々な関数を微分できる。 2. 微分法を中心として数学的手法がどのように経済学に適用されるのかを理解できる。	1	*		○	◎						○				
33143	金融制度論A	証券市場論、株式会社論	主要国(オランダ、イギリス、アメリカ、日本)の証券市場形成史、国民経済と証券市場との関係について理解する。	2	*		○	○	◎				○	△		○	△	△
33155	財政学A	現代財政学の基礎	現代の財政問題と理論的に説明するための基礎を修得する。	2	*		○	○	△				◎	○	○	○		
33301	経営学総論A	企業の形態とその構造、組織について	現代企業の仕組みと社会との関係を理解できるようにする。	2	*		◎	◎	◎				◎	○	○	△		
13302	西洋経済史A	ヨーロッパ経済史を通して経済学の基礎知識を学ぶ。	近代から現代のヨーロッパ経済の発展過程を知ることによって、 1. 経済学的な分析手法の基礎を習得することができる。 2. 現在のヨーロッパ経済の歴史的背景を理解することができる。	2	*				◎				○	◎		△		
13301	日本経済史A	近代日本経済に生じた事象の因果関係を理解する。	1. 日本帝国主義をめぐり戦前日本経済の真相を理解できるようにする。 2. 事象を積極的に捉え直すことができるようになる。	2	*		○	○					△		△			
13303	アジア経済史A	独逸科目の主題、中国を例に近代アジア経済史の基礎知識を学ぶ。	近代アジアにおける資本主義的経済発展について再考することを目標とする。	2	*		○	○					◎	○	○	△		
33520	比較経済体制論A	戦後世界経済と経済システム、歴史的変遷と現在	比較経済学に基づき歴史的・制度的観点から世界経済動向を理解し、現在を捉える力を養う。	2	*		○	○					◎	◎	○	○		
33002	総合講義 I	ゲスト講師の生の声を聴いて、21世紀の地域社会のありかたを探求します。	現代の地域社会に対する的確な理解と課題に対する提案能力が向上します。	1	*		◎		△	△				◎				△
	総合講義 II	ゲスト講師の生の声を聴いて、21世紀の地域社会のありかたを探求します。	現代の地域社会に対する的確な理解と課題に対する提案能力が向上します。	1	*		◎		△	△				◎				△
13403	政治経済学																	
	政治経済学A	資本主義経済を構成する基礎概念を理解する。	1. 基礎概念を歴史認識に基づいて理解できるようにする。 2. よき理論を用いて現代資本主義の諸問題にアプローチすることができるようになる。	2	*		◎	○					○	◎		○		
	政治経済学B	資本主義経済の構造およびその変化を理解する。	現代資本主義に閉じた構造変化のプロセスを説明できるようにする。	2	*		◎	◎					◎	◎		○		
33107	現代経済理論B	20世紀以降の資本主義経済の長期動向に関する異端派マクロ経済理論を理解する。	1. 20世紀以降の資本主義経済の長期動向を整理理解する。 2. 特に「技術進歩」と「金融」の役割を理解する。 3. 資本主義経済の制度的・進化的アプローチとは何かを理解する。	2	*		△	○	○				△	◎	◎			
33109	理論経済学IB	不完全競争と市場の失敗について理解する。	1. 市場における企業行動の特徴と問題点を理解することができるようになる。 2. 経済政策の考え方を理解することができるようになる。 3. 様々な経済問題を経済学の観点から理解することができるようになる。	2	*			◎	◎		△			△	◎		○	
33111	理論経済学 II B	マクロ経済学に関する標準的な考え方や分析方法を体系的に学ぶ。	1. 標準的なマクロ経済理論を体系的に身につける。 2. マクロ経済に関する諸概念を理解し、自分の力でそれらを現実経済に適用できる。	2	*			◎	◎				△	○	◎	○		
33114	計量経済学	横断面データを用いた線形回帰分析手法	横断面データを用いた回帰分析手法が理解できるようにする。	2	*				◎								○	◎
	計量経済学A	横断面データを用いた線形回帰分析手法	横断面データを用いた回帰分析手法が理解できるようにする。	2	*				◎								○	◎
x	計量経済学B	横断面データ以外のデータを用いた回帰分析手法	横断面データ以外のデータを用いた回帰分析手法が理解できるようにする。	2	*				◎								○	◎
13104	応用計量経済学A	横断面データを用いた回帰分析をソフトウェアを利用して実践する。	計量経済モデルを作成し、横断面データを用いた回帰分析をソフトウェアを用いて行い、その結果の解釈ができるようになる。	2	*				◎					△			◎	◎
33119	応用計量経済学B	横断面データ以外のデータを用いた回帰分析をソフトウェアを利用して実践する。	計量経済モデルを作成し、横断面データ以外のデータを用いた回帰分析をソフトウェアを用いて行い、その結果の解釈ができるようになる。	2	*				◎					△			◎	◎
	統計学B	仮説検定の理論と実際	仮説検定の理論を構築させる。さらにパロディによる統計計算が出来るようになる。	2	*				◎					△			○	○
13103	経済統計学A	経済分析に使われる統計手法の基礎を学習する。	基礎的な統計計算が一通り出来るようになる。	2	*				◎					△			○	○
33125	経済統計学B	経済分野ならではのデータに関する知識を得る。	主要な経済統計を捉えるようになる。	2	*				◎					△			○	○
	経済変動論B	資本主義の歴史的展開分析	資本主義経済の歴史認識が可能になる。	2	*		◎						○	◎		○		

学域名	人間社会学域
学類名	経済学類

2014年度版

学類のディプロマポリシー(学位授与方針)				学類の学習成果(○学習成果を上げるために履修することとくに強く求められる科目、○学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△学習成果を上げるために履修することが求められる科目)														
以下の5つの人材養成目標を掲げ、この人材養成目標に到達した者に学士(経済学)の学位を授与する。				1.幅広い教養、知識、判断力を持った社会で活躍できる人材を養成する。 2.経済学・経営学の専門知識を持った人材を養成する。 3.現代社会に対する強い問題意識をもち、自分自身の力で課題を発見し、解決する能力をもった人材を養成する。 4.高いコミュニケーション能力(外国語によるものも含む)、プレゼンテーション能力、IT能力を養う。 5.地球社会が抱える問題に強い関心をもち、そこに積極的に取り組むことのできる人間性豊かな人材を養成する。														
学類のOP(カリキュラム編成方針)				学類の学習成果(○学習成果を上げるために履修することとくに強く求められる科目、○学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△学習成果を上げるために履修することが求められる科目)														
【2008年度以降の入学】初年度には経済学を学ぶにあたっての基礎的なツールとなる「経済数学Ⅰ」や、「経済学への興味関心を高めることを目的に設置した「総合講義」を履修して、2年次以降に本格的な専門科目の履修に備える。専門科目として履修される科目の大部分は選択科目であり、各自の興味に応じて自主的に履修計画を作成することができる。共通プログラムとしての位置づけを持つ科目を学類共通科目(18科目)として配置し、そこから5科目(10単位)を履修することが卒業要件となっている。なお、2年次から経済学論・経済政策コース、経営・情報コース、比較社会経済コースのいずれかに配属されるが、各コースが設定したコース選択必修科目から少なくとも科目12単位を履修することが卒業要件となっている。また、3年次から、各自が関心を持つ専門演習に配属され、専門分野をより深く探求する。演習では、研究指導を目的とした特別研究(3年次)、卒業研究(4年次)の履修が可能である。				1.幅広い教養を身につけ、複眼的に現代社会を捉える目を養う。 2.経済学・経営学に必要な基礎的な考え方や手法を修得する。 3.市場経済のしくみと政府の役割を理解する。 4.企業、組織のしくみを学び、経営に必要な知識を得る。 5.国際経済社会の動向および外国経済事情に対する理解を深める。 6.現代経済社会が形成されるに至った過程及び背景を理解する。 7.さまざまな経済学説や理論を修得する。 8.国際社会、日本社会、地域社会が抱える諸問題を理解し、解決の政策立案能力を養う。 9.将来、社会の一員として働くことの意識を高めるとともに、キャリア形成のための基盤を形成する。 10.課題を見出し、自ら調べ、解決策を導き出す能力を培う。 11.さまざまな情報源(日本語以外で発信されるものも含む)から適切な情報を選択し、有益に活用する能力を養う。 12.社会に必要なコミュニケーション能力、IT能力、プレゼンテーション能力、ディベート能力を身につける。														
学類のOP(カリキュラム編成方針)				学類の学習成果(○学習成果を上げるために履修することとくに強く求められる科目、○学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△学習成果を上げるために履修することが求められる科目)														
【2012年度以降の入学】専門科目として履修される科目の大部分は選択科目であり、各自の興味に応じて自主的に履修計画を作成することができる。しかし共通プログラムとしての位置づけを持つ科目は、学類共通科目として選択必修となっている。学類共通科目は、数学系、原論系、経済史、学際・学際系、専攻系から、それぞれ2.1科目以上、全体で科目12単位を履修することが卒業要件となる。2年次から、各自が関心を持つ専門演習に配属され、専門分野をより深く探求する。演習では、研究指導を目的とした特別研究(3年次)、卒業研究(4年次)の履修が可能である。また演習配属後、経済学論・経済政策コース、経営・情報コース、比較社会経済コースのいずれかに配属されるが、各コースが設定したコース選択必修科目から少なくとも8科目18単位を履修することが卒業要件となっている。				1.幅広い教養を身につけ、複眼的に現代社会を捉える目を養う。 2.経済学・経営学に必要な基礎的な考え方や手法を修得する。 3.市場経済のしくみと政府の役割を理解する。 4.企業、組織のしくみを学び、経営に必要な知識を得る。 5.国際経済社会の動向および外国経済事情に対する理解を深める。 6.現代経済社会が形成されるに至った過程及び背景を理解する。 7.さまざまな経済学説や理論を修得する。 8.国際社会、日本社会、地域社会が抱える諸問題を理解し、解決の政策立案能力を養う。 9.将来、社会の一員として働くことの意識を高めるとともに、キャリア形成のための基盤を形成する。 10.課題を見出し、自ら調べ、解決策を導き出す能力を培う。 11.さまざまな情報源(日本語以外で発信されるものも含む)から適切な情報を選択し、有益に活用する能力を養う。 12.社会に必要なコミュニケーション能力、IT能力、プレゼンテーション能力、ディベート能力を身につける。														
科目番号	履修科目名	履修科目の主題 (この履修科目の中心となる履修・関心・テーマ等)	学生の学習目標	学年	前期	後期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
13102	経済数学Ⅱ	微分積分に関する基礎知識を学ぶ。	1.行列を用いて連立1次方程式を表現し、解けるようになる。 2.経済学や経営学に関する問題が数式で表現できるようになる。	1	*		○	◎										
13401	経済学史		経済学の理論がいかに形成されてきたかが理解できるようになる。	2	*		○		◎									
x	経済学史B	市場経済の性格、価値、富の問題を中心に主としてマルクスとマルクス以降の学説を講義する。	経済学の理論がいかに形成されてきたかが理解できるようになる。	2	*		○	◎										○
33138	経済政策論			2	*		◎	○	○			△		◎	△			
	経済政策論A			2	*		◎	○	○			△		◎	△			
	経済政策論B			2	*		◎	○	○			△		◎	△			
33140	金融経済論	金融取引の増加は人々の暮らしにどのような影響を与えるのか。金融取引と実物経済の関係を探るための基礎として、経済学を応用した金融取引や金融市場の考え方を講義する。	1.金融の基本的概念を理解することができる。 2.家計、企業の金融取引について理解を深める。 3.金融取引における金融機関や金融制度の役割を理解することができる。	2	*		○	◎		○		◎	◎	△	○		△	△
	金融経済論A	金融取引の増加は人々の暮らしにどのような影響を与えるのか。金融取引と実物経済の関係を探るための基礎として、ミクロ経済学を応用した金融取引や金融市場の考え方を講義する。	1.金融の基本的概念を理解することができる。 2.家計、企業の金融取引について理解を深める。 3.金融取引における金融機関や金融制度の役割を理解することができる。	2	*		○	◎		○		◎	◎	△	○		△	△
	金融経済論B	金融取引の増加は人々の暮らしにどのような影響を与えるのか。金融取引と実物経済の関係を探る。標準的な理論的枠組み、金融政策の効果、金融規制・制度の重要性や金融取引の発展と関係など、理論的、政策的、制度的な視点から、マクロ経済における金融の役割を講義する。	マクロ経済における金融の役割とこれに関連する諸問題を、理論的、政策的、そして制度的な視点から理解することができる。	2	*		○	◎		○		◎	◎	△	○		△	△
33145	金融制度論B	証券市場、株式会社論	有価証券(株式、債券)と企業金融について理解を深める。また、発展途上である我が国の証券市場についても一過り	2	*		○	○	○	◎		○	△	○		△		
33147	社会政策論Ⅰ	現代日本の雇用と働き方・働きかたが抱える問題点と改革の方向性について、「雇用に焦点を置いて考察する。」「今日の雇用・失業・半失業の現状」、「雇用の形質の多様化」、「雇用の多様化に関する背景と要因」、「雇用・失業に関する社会政策の展望」などを取り上げる。	今日の雇用・失業の現状について統計資料を用いて分析する力を身につける。 ・雇用・失業に関する社会政策は歴史的にどのような発展してきたかについて理解する。 ・雇用・失業政策をめぐる今日の対立について理解するとともに、望ましい雇用・失業政策について自らの見解を述べるようになる。	2	*		○	○	○				◎	○		○		
33149	社会政策論Ⅱ	現代日本の雇用と働き方・働きかたが抱える問題点と改革の方向性について、「働き方・働きかたに焦点を置いて考察する。」「雇いと働き方・働きかたの多様化」、「働きかたの多様化」、「最低賃金制」、「労働使と労働組合」、「働きかたから見た男女平等」、「ワーキングプア実現に向けた社会政策の課題」などを取り上げる。	日本の労働市場の現状、労働関係、男女平等などをめぐる現状について統計資料を用いて分析する力を身につける。 それらの日本の特徴及びそれを規定している要因について、諸外国との比較をおこなって理解する。 労働時間や賃金、労働関係、男女平等に関する政策をめぐる今日の対立について理解するとともに、望ましい政策について自らの見解を述べるようになる。	2	*		○	○	○			△		◎	○		○	
33151	社会保障論Ⅰ			2	*		○	△	○			△	△	◎	△		◎	○
33153	社会保障論Ⅱ			2	*		○	△	○			△	△	◎	△		◎	○
33157	財政学B	財政学の現代的応用	財政のグローバル化など、現代の財政現象を理論的に理解できるようになる。	2	*		○	○	△			△	△	◎	△		◎	○
33159	地方財政論A	地方財政の歳入と税制	1.国と地方の財源配分の考え方と制度を理解する。 2.地方税の特質を理解する。	2	*		○	△				◎		○			○	
33161	地方財政論B	地方財政の歳出と公債	自治体の主要な歳出分野の内容を理解し、持続可能な財政運営を行う上での観点や手法に関する知識を得る。	2	*		○	△				◎		○			○	
33163	地域経済論A	グローバル化のもとでの諸地域経済の現状、課題、発展戦略	1.現代経済に関する地域的視点および地域経済分析の理念と方法を学ぶ。 2.定住の地域の発展から経済社会の問題を解明する分析視点を養う。	2	*		○	○				○	○	◎	○		○	
33165	地域経済論B	地域経済学の理論、分析方法、地域政策の歴史	1.現代経済に関する地域的視点および地域経済分析の理念と方法を学ぶ。 2.地域経済学と地域政策の歴史的な展開を理解する。	2	*		○	○				○	○	◎	○		○	
33167	生活経済論A	消費生活経済学の背景	1.生活経済学の理論的背景が理解できるようになる。 2.世界経済の中に、日本・地域での私たちの生活に関わる経済問題を、労働生活と消費生活の側面から、把握できるようになる。	2	*		○	○				△		◎	○		○	
33169	生活経済論B	消費生活経済学の新たな展開	1.生活経済の新たな諸問題を理解する。 2.生活環境のあらゆる場面で主体的で自立した社会となるために必要な知識の体系を身につける。	2	*		○	○				△		◎	○		○	
33171	環境経済論A	環境問題に対する経済学的アプローチの紹介	1.環境問題に対するミクロ経済学、マクロ経済学、社会経済学、エコロジー経済のアプローチを理解する。 2.環境問題に対する経済学的アプローチに対し、それぞれの視点の違いの意味を理解し、それらをもとにアプローチ間の批判的検討を行う能力を身につける。	2	*		△	○					○	◎				
33173	環境経済論B	環境政策の歴史と手法、主な政策の紹介	1.環境政策に対し、エコロジー経済学の自然科学的な理解をふまえ、効率性のみならず環境政策的な視点から理解できるようになる。 2.さまざまな環境問題の発生を社会経済的に理解し、効率性のみならず公正の視点から理解するようになる。	2	*		△	○					○	◎				
33175	農業経済論A	農業問題に対する社会経済学的アプローチの紹介	1.農業と社会経済発展について、社会経済学的に理解する。 2.農産物価格、農業の技術と経営のかかわり、フードシステムについて理解する。	2	*		△	○					○	◎				

学域名	人間社会学域
学類名	経済学類

2014年度版

学類のOP(カリキュラム構成方針)		学類の学習成果(〇=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)													
<p>以下の5つの人材養成目標を掲げ、この人材養成目標に到達した者に学士(経済学)の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 幅広い教養、知識、判断力を持った社会で活躍できる人材を養成する。 経済学・経営学の専門知識を持った人材を養成する。 現代社会に対する強い問題意識をもち、自分自身の力で課題を発見し、解決する能力をもった人材を養成する。 高いコミュニケーション能力(外国語によるものも含む)、プレゼンテーション能力、IT能力を養う。 地域社会が抱える問題に関心をもち、そこに積極的に取り組むことができる人間性豊かな人材を養成する。 		<ol style="list-style-type: none"> 幅広い教養を身に付け、複眼的に現代社会を捉える。 経済学・経営学を学ぶに必要な基礎的な考え方や分析手法を修得する。 市場経済のしくみと政府の役割を理解する。 企業、組織のしくみを学び、経営に必要な知識を得る。 国際経済の動向および外国経済事情に対する理解を深める。 現代経済社会が形成されるに至った過程及び背景を理解する。 さまざまな経済学説や理論を修得する。 国際社会、日本社会、地域社会が抱える諸問題を高めるとともに、キャリア形成のための政策立案力を養う。 将来、社会の一員として働くことの意識を高めるとともに、キャリア形成のための政策立案力を養う。 課題を見出し、自ら調べ、解決策を導き出す能力を培う。 さまざまな情報源(日本語以外で発信されるものも含む)から適切な情報を取り捨選択し、有益に活用する能力を養う。 社会人に必要なコミュニケーション能力、IT能力、プレゼンテーション能力、ディベート能力を身につける。 													
科目番号	履修科目名	履修科目の主題 (この履修科目の中心となる履修・履修テーマ等)	学生の学習目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
33177	農業経済論B	農業政策の歴史の展開と手法の変遷	1.農業政策の歴史的背景とその変遷について、社会経済学的に理解する。 2.農業の諸問題について知識を広げ、特に地域の視点から農業政策のあり方について考えることができるようになる。	2	*	△			○			◎			
33178	健康福祉論A	1.健康格差に着目した、健康政策の多面的な検討。 2.誰かがある人のスポーツの考え方や意義、課題等について、スポーツの文化的特徴や歴史、社会的背景から考察する。	1.個人の健康状態に影響を及ぼす社会経済的要因について理解できるようになる。 2.誰かがある人のスポーツ参加のあり方(意義や方法)について、スポーツの文化的特徴を踏まえた観点から理解できるようになる。	2	*	◎				○			△		
33180	健康福祉論B	1.事業型非営利組織としての総合型スポーツクラブの財源構造 2.福祉社会における障がい者や高齢者向けの事業マネジメント	1.事業型非営利組織としての総合型スポーツクラブの財源構造が理解できるようになる。 2.障がい者や高齢者の特性に配慮した事業の企画・立案のプロセスが理解できるようになる。	2	*	◎			○		△		△		
x	現代スポーツ論	社会文化とスポーツ文化との関わり	社会文化とスポーツ文化との関わりについて、歴史を通じて理解する。また、それを踏まえて現代社会におけるスポーツのあり方の課題を解決出来るようになる。	2	*	◎			△			○	○		
33187	労働経済論														
33303	経営学総論B	現代企業の経営戦略とグローバル化の展開	現代企業がどのように経営戦略を立て、それを実行しているのか、情報化とグローバル化の視点から理解できるようになる。	2	*	◎	◎	○	◎	○			△		
33305	経営管理論A	経営管理理論の潮流	企業において経営管理がいかに実践されてきたのか、理論と実践の両面から理解できるようになる。	2	*		◎	◎	○	△	○				
33307	経営管理論B	日本企業の経営管理	日本企業がどのように経営管理を実践しているのか、その変遷と現状について理解できるようになる。	2	*		◎	◎	○		○	◎			
33309	生産システム論A	生産システムの概念を総合的視点から言及しながら、次世代へつなげる知的生産システムの基礎理論・手法について講義する。	1.生産システムの概念と原理について、理解できるようになる。 2.次世代生産システムの実現のために求められる条件について議論できるようになる。	2	*		○	◎					○		
33311	生産システム論B	生産システムの運営に関わる生産管理の考え方や手法について講義した上、その事例を紹介する。	1.生産管理の概念と基礎知識について、理解できるようになる。 2.生産管理の抱えている諸問題を明らかにした上で、その解決のための基本的な考え方や方法論について議論できるようになる。	2	*		○	◎					○		
33313	経営情報論A	企業の組織と情報	企業の組織現象を情報に注目して理解する。	2	*	△	◎								○
33315	経営情報論B	企業の戦略と情報および情報の視点で見た企業の業務プロセス	企業の戦略行動を情報に注目して理解する。また、情報システム関連の内容を理解できるようになる。	2	*	△	△	◎							
33317	ビジネス・ファイナンスA	コーポレート・ファイナンス	ファイナンスに関する基本的な知識や概念を実習を通して体系的に身につけることを目的としている。	2	*			○	○					○	
33319	ビジネス・ファイナンスB	パーソナル・ファイナンス及びポートフォリオ理論	ファイナンスに関する基本的な知識や概念を実習を通して身につける。	2	*			○	○					○	
33321	会計学原理A	会計学基礎	伝統的会計実践の構造と機能を理解する	2	*	○	◎								
33323	会計学原理B	会計モデルの記述・分析	現行会計モデルの理論的枠組み、特徴、および問題を理解する。	2	*	○	◎								
33326	管理会計論			2	*	○	◎		△	◎	△		◎		△
x	管理会計論B			2	*	○	◎		△	◎	△		◎		△
33329	財務会計論A	財務諸表の構造的理解	会計情報の外部利用者として、財務諸表の構造について理解できるようにする。	2	*	○	◎	○	◎	△	○		◎		△
33331	財務会計論B	財務諸表に基づく経営分析	会計情報の外部利用者として、財務諸表に基づく経営分析が実行できるようになる。	2	*	○	◎	◎	◎	△	○		◎		△
33333	情報科学A	情報化社会の発展の概要	情報化社会の発展のために、技術、政策、ビジネスの各側面を考察する。	2	*	◎	◎						○	◎	○
33335	情報科学B	情報(データ)分析の方法論	情報分析のための統計的データ解析に基づいた方法論を学ぶ。	2	*	○	◎						○	◎	◎
33337	マーケティングA	マーケティングの考え方の基礎理論を学ぶ	企業のマーケティング活動について、基本的な理解ができるようになる。	2	*	○	◎	◎					○	◎	◎
33339	マーケティングB	マーケティングの知識を応用する	研究開発から市場までの一連の企業活動を理解し、分析できるようにする。	2	*	○	◎	△	◎		○	◎	◎	◎	◎
33341	経営戦略論	企業経営と戦略	企業経営における戦略の役割と経営戦略について理解する。	2	*	○		◎					△		
33501	西洋経済史B	ヨーロッパ経済史を通して経済史の基礎理論を学ぶ。	古代から近代のヨーロッパ経済の発展過程をたどることによって、 1.経済史から経済学アプローチする手法を身につけることができる。 2.現在のヨーロッパ経済の歴史の基礎を理解することができる。	2	*		○			○	◎		△		
33505	日本経済史B	現代日本経済に生じた事象の因果関係を理解する	1.戦後日本経済の発展を理解できるようにする。 2.戦後を複眼的に捉えることができるようになる。	2	*	○	◎			△	◎		△		
33507	アジア経済史B	近現代中国における資本主義化・工業化の特徴	近現代東アジアにおける資本主義の発展の意義について理解することを目標とする。	2	*					○	◎		△		
13402	社会思想史A	現代社会を支える思想の歴史的成り立ちの検証	現代社会が抱える自由、平等、人権、マイノリティ問題等を考えるさいの方法的視野を広げることができる。	2	*	○				◎					
33511	社会思想史B	現代社会を支える思想の歴史的成り立ちの検証	現代社会が抱える自由、平等、人権、マイノリティ問題等を考えるさいの方法的視野を広げることができる。	2	*	○				◎					
33513	世界経済論A	20世紀の世界経済の展開	20世紀以降の世界経済の展開と概要を、経済理論、政治経済思想、豊かな国とそうでない国との関係性などを通じて理解する。	2	*	◎	△	△		◎	○	△	◎		
33515	世界経済論B	21世紀・発展途上国経済を巡る世界の動き	1.発展途上国を中心に世界経済の現状について学ぶ。 2.公的セクター、企業セクター、市民社会セクターの3つの視点から発展途上国支援策について理解する。 3.世界経済および発展途上国経済を理解するための統計とその利用方法について学ぶ。	2	*	◎	△	△		◎	○	△	◎		

学域名	人間社会学域
学類名	経済学類

2014年度版

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

以下の5つの人材養成目標を掲げ、この人材養成目標に到達した者に学士(経済学)の学位を授与する。

- 幅広い教養、知識、判断力を持った社会で活躍できる人材を養成する。
- 経済学・経営学の専門知識を持った人材を養成する。
- 現代社会に対する強い問題意識をも、自分自身の力で課題を発見し、解決する能力をもった人材を養成する。
- 高いコミュニケーション能力(外国語によるものを含む)、プレゼンテーション能力、IT能力を養う。
- 地域社会が抱える問題に関心をもち、そこに積極的に関わることでできる人間性豊かな人材を養成する。

学類のOP(カリキュラム編成方針)

【2008年度から2011年度の入学者】初年度には経済学を学ぶにあたっての基礎的なツールとなる「経済数学I」や、経済学への興味関心を高めることを目的に配置した「総合講義」を履修して、2年次以降に本特化される専門科目の履修に備える。専門科目として開講される科目の大部分は選択科目であり、各自の興味に応じて自主的に履修計画を作成することができる。共通プログラムとして位置づけを持つ科目を学類共通科目(13科目)として配置し、そこから5科目(10単位)を履修することが卒業要件となっている。なお、2年次から経済理論・経済政策コース、経営・情報コース、比較社会経済コースのいずれかに配属されるが、各コースが設定したコース選択必修科目から少なくとも8科目12単位を履修することが卒業要件となっている。また、3年次から、各自が関心を持つ専門演習に配属され、専門分野をより深く探求する。演習では、研究指導を目的とした特別研究(3年次)、卒業研究(4年次)の履修が可能である。

【2012年度以降の入学者】専門科目として開講される科目の大部分は選択科目であり、各自の興味に応じて自主的に履修計画を作成することができる。しかし共通プログラムワークとしての位置づけを持つ科目は、学類共通科目として選択必修となっている。学類共通科目は、数学系、原論系、経済史、学説・思想系の4領域から、それぞれ2以上11科目以上、全体で8科目以上を履修することが卒業要件となっている。3年次から、各自が関心を持つ専門演習に配属され、専門分野をより深く探求する。演習では、研究指導を目的とした特別研究(3年次)、卒業研究(4年次)の履修が可能である。また演習配属後、経済理論・経済政策コース、経営・情報コース、比較社会経済コースのいずれかに配属されるが、各コースが設定したコース選択必修科目から少なくとも8科目12単位を履修することが卒業要件となっている。

学類の学習成果(O-学習成果を上げるために履修することによって達成される科目、O-学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△学習成果を上げるために履修することが求められる科目)

- 幅広い教養を身につけ、複眼的に現代社会を捉える目養う。
- 経済学・経営学を学ぶに必要な基礎的な考え方や分析手法を修得する。
- 市場経済のしくみと政府の役割を理解する。
- 企業、組織のしくみを学び、経営に必要な知識を得る。
- 国際経済社会の動向および外国経済事情に対する理解を深める。
- 現代経済社会が形成されるに至った過程及び背景を理解する。
- さまざまな経済学説や理論を修得する。
- 国際社会、日本社会、地域社会が抱える諸問題を理解し、解決の為に政策立案能力を養う。
- 将来、社会の一員として働くことの意識を高めるとともに、キャリア形成のための基礎を形成する。
- 課題を見出し、自ら調べ、解決策を導き出す能力を培う。
- さまざまな情報源(日本語以外で発信されているものを含む)から適切な情報を選択し、活用する能力を養う。
- 社会人に必要なコミュニケーション能力、IT能力、プレゼンテーション能力、ディベート能力を身につける。

学類のカリキュラム

科目番号	履修科目名	履修科目の主題 (この履修科目の中心となる履修・関心・テーマ等)	学生の学習目標	学年	前期	後期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
33517	国際公共経済論A	国際公共財に関する総論 歴史と理論	1. 国際政治経済秩序の維持を成す「国際公共財」につき、①「国際公共財」とは何か、②「国際公共財」の形成・発展過程について理解することができる。 2. 国際政治経済学の代表的理論について理解することができる。	2	*		◎											
33519	国際公共経済論B	国際公共財に関する各論	国際法、国際機構、対立上場国など、現代世界における主要な国際公共財について、具体的に理解することができる。	2	*		◎											
33521	比較経済体制論B	経済システム間の国際比較	比較経済学に基づき世界各地の経済システムの特徴を理解し、優位性を養う。	2	*													
33523	環日本海地域論A	環日本海地域の環境問題を、二国間や多国間の様々な局面での考察を主題とする。	主題において要求される基礎知識と総合力を身に付ける。	2	*		◎											
33525	環日本海地域論B	日本、韓国、北朝鮮、中国、ロシアという環日本海地域の諸国の国土問題や歴史問題を多面的に考察する事を主題とする。	主題において要求される基礎知識と総合力を身に付ける。	2	*		◎											
33527	ヨーロッパ経済統合論A	EUの歴史、制度、課題に関する基本的知識を講義する。	EUとは何かを理解し、国際社会におけるEUの位置と役割が理解できるようになる。	2	*													
33529	ヨーロッパ経済統合論B	EUのかえりては応用的な問題、たとえば第一通貨をユーロの歴史と現状について講義する。	EUの抱えている問題と課題について、国際社会における現実との関わりで応用的に理解できるようになる。	2	*													
33531	社会言語学A	日常的な日本語から日本社会を見る	日本語と日本社会との関連を見る目を養うことを目標とする。	2	*													
33533	社会言語学B	対応する場面で使用される日本語と外国語を比較する。	日本語と外国語の発音の異同を分析できるようにする。	2	*													
33535	東アジア社会情報論A	東アジア社会における多民族社会化について学ぶ。	東アジア社会の多民族社会化問題について理解する。	2	*		◎											
33537	東アジア社会情報論B	東アジアにおける多民族社会化にともなう多文化・多言語について学ぶ。	東アジア社会の多様な文化・言語の現状について理解する。	2	*		◎											
33539	国際金融論A	国際金融の基礎構造	「国際金融」の基本形態を整理し理解する。	2	*													
33541	国際金融論B	国際金融史と現状の検討	現行制度の背景にある国際金融システムの変遷を理解し、変遷し続ける現在の世界的課題を考察する。	2	*													
33543	国際経済学	主流派国際経済学の検討	主流派国際経済学をその問題点も含めて理解する。	2	*													
33545	アジア経済論	アジアの経済発展のダイナミクスを、金融経済、国際経済、開発経済の視点から講義する。	1. アジア地域の経済発展について、貿易・為替・金融・政府の役割を理解することができる。 2. アジア地域における経済統合化について、その特徴や地域内各経済への影響を理解することができる。	2														
33701	非営利組織論	非営利組織をめぐる理論、制度、内容を明らかにし、海外との比較もあつち、非営利組織そのものを包括的にとらえる。	非営利組織に関わる基礎理論、各種制度の内容、運営の方法をはじめとする一般的な事象を理解し、実際の活動事例や海外との比較においてそれがどのように展開しているのか、また、現在非営利組織が抱えている課題とは何かを総合的に理解する。	2	*		◎											
33081	演習			3-4	*	*												
33081	特別研究			3	*	*												
33083	卒業研究			4	*	*												
33085	経済学外国語文献研究			2	*	*												
33087	インターンシップ	就業体験を通して経済学、経営学を実践的に学ぶ。	1. 通常の学習と就業体験との結合ができる。 2. ビジネスナー等一般社会常識の習得ができる。	3	*													